

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 11 月 12 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3870102245		
法人名	石井オアシス・ケアサービス有限会社		
事業所名	グループホーム おあしす		
所在地	松山市古川北2丁目1番6号 (電話) 089-958-8206		
管理者	谷村洋子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 19 年 10 月 30 日	評価確定日	平成 20 年 2 月 5 日

【情報提供票より】 (平成 19 年 10 月 1 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	7 人
職員数	9 人	常勤 9 人, 非常勤 人, 常勤換算 6.4 人	

### (2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000~35,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	有( )円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

### (3) 利用者の概要 (平成 19 年 10 月 1 日事業所記入)

利用者人数	8 名	男性 1 名	女性 7 名
要介護 1	1 名	要介護 2	1 名
要介護 3	名	要介護 4	4 名
要介護 5	2 名	要支援 2	名
年齢	平均 86.3 歳	最低 80 歳	最高 101 歳

### (4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

店舗を改修した二階建て1ユニットの事業所で、開設7年目を迎える。スーパー、小学校、保育園、公園等が近くにあり、便利なうえに比較的車の往来が少なく静かな立地条件である。管理者は在宅介護からの異動で、その経験を活かし、職員と利用者のコミュニケーションの基本は挨拶であるとの認識から、気持ちのよい挨拶を交わすことから取り組んでいる。利用者とのコミュニケーションや家族への報告を密にすることで利用者や家族の信頼を得、良好な関係を築いている。口から食事をおいしく摂ることが、心身共に元気で過ごしていただくために重要である

## 【質向上への取組状況】

### ▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

理念の具体化を図り、ケアに活かすことができるようにしている。日々の記録を援助記録表という書式に変更し、介護計画の作成や見直しに活かしている。また、栄養について知識理解を深め、献立作成に役立てている。

### ▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

正職員3名で分担し、各々が深く関わっている項目について自己評価したものを、管理者がまとめている。自己評価から今後の取り組みの方針を明確にし、サービスの質の向上に繋げていこうとする姿勢がうかがえる。

### ▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

平成18年から2か月に1回開催し、地域とのつながりに少しずつ役立てている。運営推進会議の趣旨を説明し、理解を得、ホームの行事報告や取り組みについて議題に取り上げ、意見交換している。活発な意見交換ができるよう、身近な事柄を議題に設定する等工夫しており、「食」についての議題では特に活発な意見が出ている。

### ▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

電話連絡を密にすることで家族との良好な関係作りに努め、要望の出しやすい雰囲気を作っている。家族からの「歩かせてほしい」等の要望を介護計画に反映させている。

### ▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

散歩の時に近隣の方々と挨拶を交わしたり、近くの保育園を訪れたりしている。また、運営推進会議に町内会長や近隣の方に出席してもらい、情報交換や災害時の協力依頼をしている。地区の長寿会に出席し、地域の方の相談にも応じている。

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
“愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
  - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
  - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 石井オアシス・ケアサービス有限会社  
(ユニット名) グループホーム おあしす

記入者(管理者) 氏名 谷村 洋子

評価完了日 平成 19 年 10 月 1 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 「尊敬・優しさ・笑顔」の理念を具体的な内容に変更し、利用者の方が、地域の中で安心して暮らしているように支援している。  (外部評価) 前回の外部評価結果から、理念の具体化を図っている。従来の基本理念を具体的な言葉に変え、利用者が安心して穏やかで充実した生活を送れるよう、また家庭的な雰囲気の中で楽しく生活できるよう、新しく理念を作り上げている。新しい理念の「充実した生活」の中には地域での生活も視野に入れており、地域との繋がりも深めたいと考えている。		運営推進会議を通じて当ホームの運営理念を理解いただき、地域の方々から支持していただけるように努力してゆきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念に基づき、毎月の目標を掲げ日々の介護を行っている。  (外部評価) 全職員で話し合って新しく理念を作り上げたため、共有はできている。日々の介護に活かせるよう、毎月具体的な目標をミーティング時に話し合い、決めている。訪問時には「温度差に気をつける」という10月の目標が掲げられていた。		毎月末の職員ミーティングにおいて、問題点を話し合い、職員間の毎月の目標を事務所に掲示し意識を持った取り組みが出来るようにしている。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) ご家族とは、面会時に利用者の近況報告をしたり、電話をしたり、「おあしす新聞」で地域の中での暮らしをお伝えしている。また、地域の方とは、運営推進会議の際、理解をいただけるように働きかけたり、地区長寿会との交流を持ったりしている。		おあしす新聞の発行。運営推進会議の開催。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩時に挨拶をしたり、近隣保育園と親交を深めている。		近隣の方が立ち寄ってくれることは、ほとんどないが、秋の行事の「芋炊き」などのホーム開催行事に近隣の方をご招待している。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 町内会との連携により、秋祭りなどの行事ごとには、こちらが参加できない分、御神輿などに入っただけのようにしている。  (外部評価) ホームは町内会に加入しており、地区の長寿会との交流をはじめ、介護の専門家として相談にも応じている。また、近隣の保育園から園児の訪問を受け入れている。管理者は他のグループホームを見学し、地域との繋がりを深めていきたいと考えている。	※	町内会との連携を図ってゆきたい。  ※ ホームは来春の移転後、町内会との連携に努め、さらに地域の方にグループホームや認知症について理解を得たいと考えている。また、地域のサロンを立ち上げるという新規の取り組みも計画している。今後の取り組みに期待する。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 近隣の方からのご相談や質問について、丁寧に対応している。		ホームに併設し、居宅支援事業所もあり、連携している。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価を活かして、改善できるものは、職員全員で話し合い、すぐに取り組むようにしている。  (外部評価) 管理者と職員は評価の意義を理解し、前回の外部評価結果を活かしている。理念の具体化や注意を要する物の安全管理に努めている。さらに、保健所から栄養に関する資料を収集し、知識を得、栄養摂取量を明確にしている。サービスの質の向上のため、積極的に改善に取り組んでいる。		特にホーム長は、前回の指摘に対し真摯に受け止めており、改善に積極的に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ほぼ、2ヶ月に1回の実施であるが、当ホームを客観的に観ていただいて、会議で頂いた意見をテーマとして職員間で話し合っている。  (外部評価) 事業所の理念や行事、取り組みについて報告し、意見交換している。地域の方との接点ができただことで、長寿会との交流や災害時の協力依頼にも繋がっている。身近なテーマを議題にすることで、意見を出しやすくする工夫をしている。		議事録を作成し、職員がいつでも閲覧できるようにしている。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 営業職員が、松山市介護保険課、高齢福祉課、松山市社協を訪問し、質問事項や、意見交換等行っている。また、運営推進会議にも参加していただいている。  (外部評価) 営業担当者がヘルパー2級の資格を取得し、日常のケアにも携わることでホームの実情を把握し、市との連携をより密にしている。		運営推進会議への積極的な参加をいただいている。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 極力、研修会などに参加し、知識取得に努力している。利用者やそのご家族の相談にも対応できるようにしている。		愛媛県在宅介護研修センターや愛媛県、松山市社協開催の研修会には極力参加している。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 毎月のカンファレンスの際、利用者への対応について、話し合いを持っている。		愛媛県在宅介護研修センターや愛媛県、松山市社協開催の研修会に参加している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者、ご家族に説明・同意を丁寧にゆっくりと行っている。		グループホーム内での日常生活等を具体的に説明し、利用者ができるだけご自身の残存能力を活かした生活ができるよう支援する旨説明してゆく。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 全職員が、周知できるように「連絡ノート」に記入し、小さな出来事も共有し、利用者の「想い」や「不安」を支援できるようにしている。		職員全員が、仕事に入る前に目を通し、確認している。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 利用者の方の暮らしぶりや健康状態は、来訪時や電話でお知らせし、金銭管理については、出納帳のコピーを費用請求時に送付したりしている。また、「おあしす新聞」にて行事と併せて写真を掲載してお知らせしたりしている。 (外部評価) 面会の少ない家族にも1か月に1回は来ていただけるよう、利用料は現金での集金にしている。面会時に利用者の暮らしぶりや健康状態について報告し、金銭管理については郵送で知らせている。健康状態については特に留意し、細かな事柄でも電話でその都度報告している。また行事の際は様子を写真に撮り、季刊のホーム便りに載せて届けている。		おあしす新聞の発行。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 来訪時や電話で近況報告した際に、意見や要望をお聞きしており、職員に伝達し、周知させたり、ケアプランに反映させている。運営推進会議にも参加していただき、ご意見等いただいている。 (外部評価) 家族からは「歩行させてほしい」等の要望が出され、介護計画に取り入れている。運営推進会議への出席を依頼し、意見をいただく機会を設けている。		運営推進会議への参加依頼。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のミーティングやカンファレンス等で意見を出し合い、運営者には週報や電話にて知らせている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 利用者の状況に合わせて勤務内容の変更、調整を行っている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員の移動はあまり無いが、異動や離職を想定し、利用者へのダメージが無いように、職員間で都度連携が取れるようにしている。  (外部評価) 関連施設へのやむを得ない異動はあるが、なるべく異動や離職がないよう配慮している。管理者が夜勤に入り、職員と同じ業務に携わることで、職員の気持ちを共有し、職員のストレス解消にもつなげている。	※	パート職員から正職員への登用が出来るように運営者への働きかけをするとともに、職員の定着化が図れるように努力している。
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 平成19年より、正職員が増え、他のグループホームとの交換研修を行ったりしている。  (外部評価) 管理者は、職員が知識や技術、資格の取得をすることが、サービスの質の向上に必要であると認識し、外部研修への参加を積極的に勧めている。また研修に参加した職員は、他の職員に伝達講習し、情報を共有している。	※  ※	幅広い視野に立った判断ができるように外部研修等に積極的に参加させたり、明確なホームの介護方針が伝達できるように内部研修を実施してゆきたい。  管理者は、外部研修の報告会やホームの実情に即した身近な問題を取り上げた勉強会をすることで、更なるサービスの質の向上を目指しているので、内部研修の充実に期待する。



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 実習生の研修を受け入れたり、他のグループホームとの交換研修を行い、具体的な実践に繋げている。		他のグループホームを見学に行ったり、他の介護事業者（特養、老健、地域医療連携室）との利用者配慮に向けた取り組みを行いサービスの質の向上に努めている。
			(外部評価) 愛媛県グループホーム連絡協議会主催の交換研修に参加し、他グループホームの同業者と交流している。また、管理者が他のグループホームを見学し、取り入れたらよい取り組みについて前向きに情報収集している。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 管理者は日常的に職員の不安や悩みに耳を傾け、対応し運営者に相談したり、提案したりしている。		職員のカウンセリング等個人的な悩みを聞くようにし、職員の心理面での安定化を図り、現場での介護に集中できるように努力している。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員の資格取得への協力や研修への参加を支援している。年一回、職員は健康診断を行っている。	※	パート職員から正職員への登用が出来るように運営者への働きかけをするとともに、職員の定着化を図れるように努力している。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用者やご家族からの要望を聞き、解決できるように努力している。		利用者の状態、ご家族が何を当ホームに期待しているかを把握できるように、ホーム長と介護職員の2名体制で事前に、利用者、ご家族と面談している。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居前の面談時にご家族からの要望などを聞き、対応できるように、職員が話し合っている。		利用者の状態、ご家族が何を当ホームに期待しているかを把握できるように、ホーム長と介護職員の2名体制で事前に、利用者、ご家族と面談している。



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) グループホームのサービスについて、理解していただき、利用者がご家族と求めている支援を理解し対応する努力をしている。		利用者の状態、ご家族が何を当ホームに期待しているかを把握できるように、ホーム長と介護職員の2名体制で事前に、利用者、ご家族と面談している。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 利用者やご家族が安心して利用してもらえるよう、「家族的」な雰囲気作りをし、面会を自由にしてもらっている。  (外部評価) 入居の相談を受けた際、利用者の自宅又は入院先等を訪問し、利用者の状態を把握するよう努めている。その後、家族や利用者に見学してもらっている。本人が納得した上でサービスを開始しているため、今のところ混乱なくスムーズに利用できている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 職員は、利用者の得意なことを把握し、一緒に行ったり、話を聞かせてもらったりしている。  (外部評価) クリスマス会や誕生会等にケーキを焼く職員から、利用者においしかったとお礼を言われたり、季節の掲示物をほめられたりすることがあり、喜びを感じているということ聞いた。訪問日にも、昼食の牡蠣飯がおいしいと言っている利用者、作った職員の名前を伝え、喜びを分かち合っている場面があった。	※	利用者の小さな変化や体調などを密に連絡している。  今後重度化に伴い、活動意欲の低下や意思表示の難しくなる利用者に対しても、得意分野で活動する場面を多く作ることができるよう、センター方式のアセスメントシートも一つの方法として考慮するなど、生活歴シートの活用等を期待する。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日頃から、ご家族に日常生活ぶりや楽しかったこと、心配なことなどを連絡し、相談したりして、協力が得られるように働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) ホームへ来訪してもらう機会を作り、行事参加の声をかけている。	※	「芋炊き会」などの施設行事の開催。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人、知人の来訪を歓迎し、また、着ていただけるように対応している。	※	葉書等のお便りを書いてみる試み。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 食事やおやつなどの時間に会話が弾むように職員が仲介役をしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退所された方には、管理者がご家族に様子を電話で聞いたり、入院中の方はお見舞いに行ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者と過ごす時間の中で、各利用者の要望、想いを把握し支援する努力を行っている。言葉で表現出来ない方は、表情や反応で把握するように努めている。  (外部評価) 生活の中で職員が気づいた利用者の思いや意向については援助記録表や連絡ノートに記入し、必ず就業前に全職員が確認し、共有している。	※	発語出来ない利用者がいらっしゃる為、表情・反応に注意している。  入居前に作成しているフェイスシートに、援助記録表や連絡ノートに記した職員の気づきを、その都度書き足し、蓄積した生活歴シートを作成することにより、利用者の思いや意向を総合的に且つ詳細に把握することを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日々の利用者との会話やご家族からの情報を基に今までの生活背景を把握し、暮らしの中で活かしていけるように努力している。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 日々の生活リズムを把握し、体調に合った生活を各自にさせていただくように努力している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者がしたいこと、どうなりたいか等、普段の会話や、ご家族の要望等、から取り入れケアプランを作成し月1回の職員ミーティングで話し合い、この意見を反映させたケアプランを作成している。  (外部評価) 介護計画作成前に本人や家族の要望を聞き取り、介護計画に取り入れている。また、月1回のミーティングで職員の意見を出し合い、計画作成担当者が介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 利用者の状況の変化に合わせてケアプランを見直している。  (外部評価) 具体的な援助内容を日々評価した自己評価表と、管理者がまとめた入居者介護支援経過を見直しに役立てている。3か月に1回定期的に見直しているが、利用者の状態変化や本人家族の要望に応じて、その都度見直し、新たな介護計画を作成している。		身体が状況が変わった利用者のご本人、ご家族と話し合いケアプランを作成している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 援助計画の様式を改訂し、記述を簡素化させたことで、日々の変化した出来事を記述しやすくした。また、連絡ノートにより、個々の利用者の重要とされる連絡事項について、出勤時に確認が出来るようにしている。このように個々の介護職員が掴んだ情報を共有しケアプラン作成に活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 利用者の身体状況の変化に応じた対応をしている。利用者やその後家族の状況に応じて、柔軟な対応をするように心掛けている。  (外部評価) 医療連携体制を活かし、往診や訪問看護による健康管理を行っており、緊急時の受診介助もしている。また、利用者がいつもこざっぱりしてられるよう、理美容の支援も行っている。		往診の先生が勧めないリハビリでも、ご本人、ご家族のご希望であれば、無理の無い程度のリハビリを少しずつ行っている。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 支所や消防署、幼稚園等の協力を得ている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 当社、隣接する居宅のケアマネジャーにも協力していただき、在宅マッサージや介護タクシー等のサービスを導入している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域包括支援センターには、様々な相談をしており、また、運営推進会議への参加もいただいております、情報交流等協働している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 祝祭日を除き、協力医療機関に毎日往診していただき、24時間の医療連携体制により、利用者に安心した医療対応を心掛けている。  (外部評価) 入居時、本人や家族と相談のうえ協力医療機関がかかりつけ医となり、往診を受けている。専門医の受診は家族に同行してもらっているが、利用者の状態を詳しく説明し、受診が円滑に行われるよう支援している。また、口腔ケアのための訪問歯科の往診もある。		医療連携医で対応できない疾病については、専門医に受診や、往診を積極的に行っている。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 協力医療機関の医師の往診時に日々の利用者の状況報告をし、診断や治療を受けられるようにしている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 協力医療機関の看護師の訪問時に日々相談している。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 協力医療機関の医療連携室と相談しながら、利用者の状態把握が出来るように情報交換を行っている。また、医療機関ではサポートできないこともあるので、介護職が病院を定期的に訪れ支援し、早期退院できるように対応している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 看取りの指針を作成しており、利用者、ご家族、連携医師等に説明しご理解いただき、柔軟な対応が行えるように支援している。  (外部評価) 入居時に看取りについての本人や家族の意向を聞き、看取りの指針について説明している。現在までに看取りの経験はないが、協力医療機関との連携体制は確立されており、今後要望に応じて取り組んでいきたいと考えている。重度化した場合は、状態変化の度に家族の意向を確認しながら方針を決定していく予定である。		看取りの指針を作成し、ご家族に説明している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 入居時、ターミナルに対する考えをご家族より聴き取りし、当ホームでできること、出来ないことについてご家族と話合っている。		利用者、ご家族の希望を尊重し、医療機関やご家族、職員間で連携をとり対応できるようにしている。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 当ホームでの普段からの生活のリズムや暮らしを継続できるように、日々の様子や支援について移行先に情報提供している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 年長者への尊厳を損なわないように、言葉使いや接遇面には配慮し、ミーティングや申し送り時に不適切な発言や行動があった場合は、職員同士が注意している。また、個人情報についても守秘義務等についてはその重要性について理解している。	※	研修参加を励行して接遇面についての手法について学べるようにしてゆく。
			(外部評価) 基本理念に尊敬を掲げているように、プライバシーの確保には特に配慮し、意識的に月目標に「言葉遣いに気をつける」という目標を立てたこともある。介護者の判断基準が異なることもあり、親しみを込めた言葉遣いであるか、誇りを損ねていないか判断しかねる場合がある。	※	言葉遣いや個人情報の取り扱い等基本的な理解と専門的なスキルアップのための研修参加を計画しているので、今後の取組みに期待したい。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 自己決定が困難な利用者についても、利用者の力量に応じて声かけを行っている。利用者の希望を極力取り入れて生活を支援しているが、職員が決めてしまっている場面も多くなる。	※	研修参加を励行して接遇面についての手法について学べるようにしてゆく。



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来る限り、利用者のペースを優先するように心掛けているが、人員、その日の行事・日常の介護に追われ、スタッフの都合で対応している場合もある。	※	研修参加を励行して接遇面についての手法について学べるようにしてゆく。
			(外部評価) 来訪者があると甘えの出る利用者に対して、根気よく自分でできることを促している。食事が途中で止まる利用者に対しても、急かすことなく、時折促すことで自分で食べることを支援している。また、軽度の認知症の利用者に対し、家族の協力を得て外出によるストレス解消を図る等できる限りの支援をしているが、日々の介護に追われ、職員の都合で対応している場合もある。	※	現状に満足することなく、利用者一人ひとりがその人らしく暮らせるような支援の方法を模索している。そのための研修参加を計画しているので、今後の取り組みに期待したい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 着衣を利用者の意向で決めたり、整容や化粧を好まれる方もいるが、理容・美容については、利用者の経済面の負担軽減や携わりという部分を重視し、ホーム長が理容を整えている。		ホーム長による理容の実施。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の要介護度が重かったり、興味が無かったりで、常に準備や後片付けが出来ないが、皮むきなどの簡単な作業の手伝いはお願いしている。食べたい物を事前に利用者から聞きメニューに取り入れたり、味付けを工夫したり、食べ易く刻んでみたり、食事を楽しめるように工夫している。		職員による手作り料理の提供。
			(外部評価) 季節のものや魚等新鮮な食材を使って、利用者の希望を取り入れた食事を作っている。口から食べることが大切との認識から口腔ケアや嚥下体操に力を入れている。訪問日は利用者からの希望も多い炊き込みご飯で、皆おいしそうに食べていた。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) ご自身の選択の幅は狭く、職員が配慮し、手作りのお菓子などを作ったりして、楽しんでいただいている。		職員による手作りお菓子の提供。



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 重度の利用者にも、表情や言動等で、トイレ誘導し介助している。	※	移転時には、トイレの手すりの取り付け位置に配慮し、トイレでの排泄がし易くなるように設備面の充実を図りたい。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 3日に1度を目安に入浴していただいているが、介助を必要とする方がほとんどであり、職員の人員にも限りがあるため、入浴時間等のスケジュールはホーム側で決めている。ただし、利用者の状態とご希望に配慮しながら、なるべく、浴槽につかることが出来るように、努力している。 (外部評価) 介助を要する利用者が多いこともあり、基本的には回数や時間は決まっているが、夏場には回数が増えたり、必要に応じて時間に関わらず入浴支援するなど柔軟に対応している。介助を要しない利用者は見守りながら安全に配慮している。なるべく浴槽に浸かってもらえるよう支援しているが、体調によってはシャワー浴等で対応している。	※	重度の利用者でも安心して入浴が出来るように移転時には特浴などの設備の充実を図りたい。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者のペースで休息ができるように、お昼寝をしていただいたり、起床する時間を遅らせてたりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 利用者の出来ること、出来ないことを把握し、調理、洗濯物たたみや、散歩などをしていただけるように、支援している。 (外部評価) 洗濯物たたみや食材の皮むき等の役割を担ってもらっている。ビデオを観ながら歌を歌ったり、ホーム前の駐車場で車いすでボール遊びをするなどして楽しんでいる。、外食や行事で遠出する等の楽しみもある。高齢化、重度化に伴い、利用者が役割を持ち、活躍する場面が減ってきている。	※	職員の気づきを蓄積した生活歴シートの活用で、利用者の得意とすること、興味のあることを推察し、意欲の回復や活力を引き出す工夫に期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者自身が管理することは難しく、ほとんどをホーム側で管理しているが、買い物の要望については、出来るだけ応えている。	※	パンの移動販売などの訪問をお願いし、利用者が買い物し金銭の支払いを出来る機会を作るように検討中。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天候のよい日には利用者の体調も考慮の上、散歩や日光浴を行っている。  (外部評価) 全員が自立歩行の困難な利用者であるため、車いすでの散歩を気候のよい季節に行っている。近くにある公園や保育園まで出かけ、気分転換している。また、近くのスーパーまで買い物にも出かけている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族と出かけることが出来るようにご家族来訪時に進めている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) いつでも外部との連絡が取れるように対応しているが、電話の利用が出来る方は少なく、目が悪かったり、手が不自由であったり、認知症が重度であったりで手紙などのやり取りもない。	※	レクレーションの中で手紙が出せるように誘導してゆきたい。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会時は職員が玄関先まで出迎えをし、居心地よく過ごしていただけるような雰囲気作りに心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束に関する基礎知識を全員が理解している。但し、利用者の安全確保の上で必要な身体拘束については、ご家族に十分に説明の上、書面上にて確認し、実施している。	※	研修への参加を励行してゆきたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 鍵をかけないようケアに努めている。  (外部評価) 鍵をかけない暮らしの大切さを理解し、見守りを心がけている。現在、外出傾向のある利用者はいない。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 夜間は3時間毎の巡回をし、利用者の体調の悪いときは、特に注意し巡回している。日中は職員間で情報を伝達している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 注意の必要な物品は、職員間で話し合い、利用者の状態に応じて対応している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 介護職員は経験も豊富であり、状況に合わせた中で、利用者が、安全第一の基で生活できるように相互の知識を出し合い努力している。	※	研修等に参加できるように励行してゆく。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 緊急対応マニュアルを作成し職員全員が周知している。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防署の避難訓練等、また、近隣の地域住民の方に協力をお願いしている。	※	本年度は消防訓練は未実施であり早期に対応したい。
			(外部評価) 災害時マニュアルを事務室に掲示し、緊急時の対応を職員間で確認しあっている。運営推進会議を通じて近隣の方に協力を依頼している。ホーム内の増改築や移転準備の中での避難訓練は利用者の暮らしにも影響があるため、まだ実施していない。	※	利用者の穏やかな暮らしに配慮し、避難訓練は移転後に利用者の状態を見て実施することを期待する。消防署の救命講習を受ける予定を立てているので、緊急時に落ち着いて対応できるよう早めに実施することを望む。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 日常生活の中で起こりうるリスクについてご家族と話し合い対応策を検討している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 利用者の顔色、表情、言動、バイタルチェックなどにより、些細な異変にも気づけるように努めている。また、気づきた時には、協力医療機関の医師と相談し、適切な対応をしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者の服薬ファイルを閲覧しやすい場所に配置し、確認しやすくしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 出来るだけ、自然排便ができるようにトイレ誘導し、腹部マッサージを行ったり、普段からの水分補給の声をかけを行ったりしている。また、協力医療機関の医師とも相談し、指導していただいている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行っている。利用者自身ができる場合は声がけにてご自身で行っていただいている。また、1ヶ月に1回は訪問歯科に往診していただき、精度の高い口腔ケアや入れ歯のメンテナンスを行っていただいている。		定期的な訪問歯科による口腔ケア等入れ歯などのメンテナンスを行っている。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 細かなカロリー計算は行っていないが、カロリー表を目安にしながら、食事の彩り、バランス、季節感に配慮し、旬の食材を使った食事を提供している。食事量については3度の食事後に主食と副食に分別し10段階で計測している。また、水分についても、利用者の状況に合わせて水分量をコントロールしている。  (外部評価) カロリーや栄養バランスについて勉強し、バランスのよい献立を立てている。食事の摂取状況を毎食記録し、一人ひとりの栄養摂取量を把握している。食事に汁物をつけ、おやつでも水分補給することで1日1リットルから1.5リットルは水分量を確保できるよう支援している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	(自己評価) 感染症予防マニュアルを作成し、職員には徹底している。また、ホーム入室時は手洗い等を励行している。特に「インフルエンザ」については職員、利用者ともに予防接種を行っている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) まな板や布巾等は毎晩オスバン液にて消毒しており、食材は毎日購入し、冷凍庫や冷蔵庫に日付けを確認し、保存し衛生管理、食材の鮮度等の管理を徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関先には手造りのプレートを配置し、また、プランターには花を栽培し暖かみと、親しみを醸し出して、誰もが出入りし易いように工夫している。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 花瓶に季節の花などを生けたり、職員が壁に季節を感じることが出来るように、貼り絵をしたりして、工夫し、居心地よく過ごせるように工夫している。  (外部評価) 改築型のホームであるため共用空間が十分あるとは言えないが、利用者から「みんなと一緒にいるから寂しくない」という話を聞き、居間で居心地よく過ごしていることがうかがえた。季節を感じさせる貼り絵のコスモスの花が壁いっぱい飾られ、明るい雰囲気になっている。		職員が、利用者に四季を感じていただけるように、大きな貼り絵をして工夫している。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共有スペースは狭いが、玄関先にベンチを置いて、独りになったり、ちょっとした話が出来スペースがある。	※	移転時には、個々の利用者が思い思いに独りになれたり出来るスペースを造りたい。
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には、ご自身が使い慣れたものを持ち込まれている。  (外部評価) 保育園から贈られた小物を置いたり、レクリエーションで作った額に行事の写真を入れて飾ったりしている。カラーボックス、テーブル、いす等持ち込み、一人ひとりに合った居室になっている。	※	なるべくご自宅に居られるような感じが出るように更にご家族と工夫してゆきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 朝、掃除の際に居室の換気を行っている。室温についても利用者の体調に配慮しながら、エアコン等により室温調整をコマ目に行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すり等が無く、様々な局面で職員による介助が必要である。	※	新施設移転時には設備面を利用者に配慮したもので対応予定。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 個々の利用者の要介護状態、認知症の状況に合わせた声掛け等介助を行い、混乱や失敗が見受けられた場合は、日々の引継ぎの中で話し合いをしている。		
87		○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 花壇や、玄関先のプランターなどに季節の草花を植えたりして、日光浴等の際に楽しんでいただいている。	※	現在の利用者には世話は困難であり、職員が世話をしている。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。



V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価)	① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない 利用者によって、思いが伝えられる方と伝えられない方の差が激しいが、ご家族からの聞き取りや、日々の言動の中から利用者の方々の心の中にある思いをくみ取れるように努力している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価)	① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない 午前中の水分補給後の、午前10時30分ごろから30分程度。午後のおやつ以後、午後3時30分ぐらいから間にトイレ介助などを挟むが、1時間程度。歓談したり、レクリエーションを実施している。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 個々の利用者によって、要介護状態は異なり、職員による介助なくして、生活が成り立たないのが現状であり、自己決定により、マイペースな生活は営めない。職員も利用者主体で日々の生活を送らせてあげたいが、職員の都合(一日のタイムスケジュール)で動いているのが現状である。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 職員との関わり合いにより、笑顔が見られたり、笑い声が響いたりして楽しく過ごされることも多く、意欲を持った生活が出来るように今後も努力してゆきたい。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 利用者の介護状態は、車椅子による介助が必要な方が多く、また、長時間の自立歩行の困難な方も居られ、職員が介助しなければ、外出は困難である。季節、天候、体調等様々な状況によって、日々利用者の欲求を満たして差し上げることは難しいが、出来るだけ外出等は企画している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 医療連携体制を採っており、毎日の看護師、医師の訪問により、健康管理、医療面の安全には留意している。ただし、緊急性、危急性のある場合は、救急対応を優先し、利用者の安全に配慮している。また、施設設備面での安全性(手すりが無いなど)に不安要素はあるが、職員による見守りの強化により、利用者の安全に配慮している。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない 利用者個々の要望については、極力聴き取るようにし、安心して落ち着いた生活を送っていただけるように支援しているが、全てのことに対応できていないわけではない。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価)	① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない 月に1回以上は、来訪していただいており、利用者の近況報告等の会話の中でご家族の要望を聞いたりしてケアプラン等に反映させている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価)	① ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない 時折訪問していただくくらいで、ご親族以外訪問が無いのが現状。手紙などのお便りを出すなどの工夫を今後検討してゆく。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	(自己 評価) 1 大いに増えている ② 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない	開催してから1年となり、参加者は過密なスケジュールを調整していただき参加していただいている。前向きな発言も多く、グループホームへの理解者が徐々に増えていることを感じる。
98	職員は、生き活きと働いている	(自己 評価) ① ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	管理者の基、お互いの介護に対しての経験談や、意見交換、技術のアドバイスなど利用者の安定が図られるようにベストな環境作りをしている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 評価) 1 ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の要望には全てに対応することは難しいが、ADL状態の維持、改善について職員は努力している。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 評価) ① ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	ご家族は、家庭介護が困難な状況にあり、当ホームの家庭的な対応についてはおおむね満足されている。月に1回以上は訪問していただいております。利用者の状況を確認していただいている。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ◎スタッフ全員が利用者、家族とのコミュニケーションを図り張りのある生活が行えるように努力している。
- ◎口腔ケアには従来より取り組みしており、嚥下困難などを予防し、食事がいつまでも口から採れるように配慮してゆきたい。
- ◎食事が利用者にとっては何よりの楽しみであり、「おいしい」「手作り」「家庭的な」を重視し、季節感を取り入れた食事作りに取り組んでゆきたい。
- ◎利用者が安心して穏やかに過ごせるように、「理念」に則り職員全員で努力している。